

ホップに関する資料

平成 23 年 3 月
岩手県農林水産部農産園芸課

1 岩手県のホップ生産

(1) 平成 22 年産の生産概況

平成 22 年は、春先の低温日照不足（4 月上旬、5 月上下旬）や 7 月以降の高温など、厳しい気象条件により、一部で湿害、べと病、ハダニ等の発生が見られましたが、大きな被害はなく、収穫をを行うことができました。（作付面積 83ha（前年比△2ha）、生産量 155t（46t）、生産額 329 百万円（98 百万円）、単収 187kg/10a（59kg/10a）、一等比率 92%（△0.9%）

表 岩手県のホップ生産状況の推移

年産	元年	5年	10年	15年	18年	19年	20年	21年	22年
栽培面積 (ha)	320	235	155	104	99	89	87	85	83
生産量 (t)	647	369	268	202	166	151	177	109	155
単収 (kg/10a)	202	157	173	194	168	170	204	128	187
1等品比率 (%)	95.2	96.7	86.3	96.1	92.6	92.4	89.5	92.9	92.0
栽培戸数 (戸)	538	354	225	133	130	121	115	118	111
生産額 (百万円)	1,350	760	555	409	340	317	374	231	330

資料：ホップに関する資料（全国ホップ農業協同組合連合会）

(2) 県内農協、生産組合の生産状況（平成 22 年産）

- 1 位 遠野ホップ農協 … 35.5ha
(遠野市)
- 2 位 岩手県北ホップ農協 … 25.7ha (この他青森県に 12.3ha)
(岩手町、軽米町)
- 3 位 江刺忽布農協 … 19.6ha
(北上市、奥州市江刺区)
- 4 位 岩手アサヒホップ生産組合 … 1.5ha
(盛岡市玉山区)
- 5 位 サントリー生産組合 … 1.0ha
(紫波町、花巻市石鳥谷町)

(3) 全国の状況（平成 22 年産）

現在、国産ホップは、北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県で栽培されています。
岩手県は、生産量、作付面積ともに日本一の産地となっています。

- ① 作付面積(全国 192ha) : 1 位 岩手県(83ha)、2 位 秋田県(52ha)、3 位 山形県(42ha)
- ② 生産量 (全国 362t) : 1 位 岩手県(155t)、2 位 秋田県(104t)、3 位 山形県(76t)

2 岩手県のホップ栽培の歩み

年次	産地の動き
昭和31年	県内で初めて、江刺町（現奥州市江刺区）で6.4ha 植栽。 ※宝酒造との契約栽培。この後昭和40年に麒麟ビールに契約変更。
37年	軽米町を中心に県北部で9.7ha 植栽。その後九戸村、二戸市、一戸町、浄法町（現二戸市浄法寺町）に広がる。 岩手町で20a 試作。その後6.3ha（昭和60年）まで栽培面積が拡大。 ※日本ビール（現サッポロビール）との契約栽培。 ----- 玉山村（現盛岡市玉山区）で試作開始。翌年2.8ha で栽培。 ※朝日麦酒株式会社（現アサヒビール）との契約栽培。 ----- 紫波町で4.2ha の栽培を開始。 ※株式会社寿屋（現サントリー）との契約栽培。
38年	遠野市で7.6ha 植栽。 ※麒麟ビールとの契約栽培。日本のビール大手4社が本県に進出。
39年	ホップ振興を図るため、岩手県ホップ連絡協議会を発足。
45年	第1回岩手県ホップ共進会を開催。 岩手県ホップ連絡協議会が岩手県ホップ連合会に改組。
46年	第1回岩手県ホップ生産者大会を開催。
59年	岩手県のホップ栽培面積が343ha となり、山形県を抜き日本一となる。生産額14億円達成。
60年	6月、9月に台風被害を受けるが、ホップ生産額、13億5千万円達成。
61年	栽培面積338ha、生産量638t、生産額15億円達成。名実ともに日本一のホップ生産となる。 以降も作付面積、生産量、生産額いずれも日本一のホップ産地として、現在に至る。
62年	史上初のホップ価格の引き下げ決定。
平成4年	岩手県北ホップ組合ホップ導入30周年記念式典開催。
5年	岩手県農業祭へ県木連として初参加。
6年	遠野ホップ組合創立30周年記念式典開催。
7年	江刺ホップ組合創立30周年記念式典開催。
10年	岩手県ホップ生産40周年記念大会開催。
12年	第28回岩手県農業賞受賞（遠野ホップ組合）。
14年	ホップ栽培暦検討会発足。
18年	全国ホップ連技術研修開催（岩手県北管内）。
20年	岩手県ホップ導入50周年記念祝賀会開催、記念誌発行。